『ほっと』支援戦略プランについて

地域移行計画を焦点に

２００８．４．１４　渡辺

□　地域移行は

移行へ向けた本人への適切なステップの支援

受け皿づくり

が大切

□　長野県のようなグループホームへの特別加算などの体系的な策は現状ではない。

県単独のモデル事業を活用して、成果を上げる。

→　普遍化していく

□　提案１

「児童養護施設・障害児施設から就労する１８歳障害児の地域移行」をテーマとする

（卒業する数年前から、グループホーム型の生活に変えていく　→　卒業時に就労）

＊１８歳での就職＆グループホームの同時移行は負荷が高すぎる

生活の地域移行を先行し、就労を後でくっつける

この趣旨に賛同するチームを作る

児童施設＋養護学校＋相談支援事業所＋ケアホーム事業所

このチームの組織者は、圏域マネージャ

使える事業としては、

県単独事業の体験型グループホーム

または児童養護施設の「小規模ケア」

県下で１ヵ所、モデルとしてやる

西和かな？

□　提案２

精神障害者の退院促進事業

病院の依頼待ちではなく、ニーズを掘り起こしていく。

「やりたい」と手を挙げる精神の事業所、ついてくる市町村でチームを作る。

このチームの組織者は、圏域マネージャ

使える事業としては、

国の特別対策「相談支援・充実強化事業」

どこでやるかは、精神のルートで希望を募る

目的や中身のない「ネットワークづくり」に振り回されないように、数年単位の戦略を明確にしよう。無駄な会議をするヒマがあったら、現場に足を運ぼう。